

倉天心全集
7

平凡社

岡倉天心全集（全九卷）

第七卷 定價 五四〇〇円

一九八一年一月三〇日 初版第一刷発行

著者 岡倉天心

發行者 下中邦彦

發行人 株式会社 平凡社

東京都千代田区四番町四番地
郵便番号一〇二
電話〇三（二六五）〇四五
一
振替東京八十一九六三九

印刷 東洋印刷株式会社
製本 株式会社石津製本所

凡 例

一、本全集は、岡倉天心の著書、著述、講演、談話、未発表草稿、日記、ノート、書簡などを、現在可能なかぎり蒐集し、これに関連資料を付して、集大成したものである。

二、著書、雑誌、新聞に発表された論稿は、原則として初出を底本とし、自筆原稿あるいは異本との異同を校訂した。

三、英文の著書、著述、未発表草稿、書簡は、厳密な校訂をほどこした後、すべて新訳して収録した。

四、自筆の日記、旅行日誌、古社寺調査手録、ノートなどは、できるだけ原型を損わぬよう翻刻した。

五、収録文は底本を忠実に翻刻することを旨としたが、読解の便宜をはかるため、次の方針で整理した。

1 原題のない草稿や新聞掲載の講演速記などには、編者による標題を掲げた。

2 漢字は新字体を使用し、俗字・略字は通行の字体に改めた。

3 あきらかな誤字・誤植は訂正し、誤使用あるいは正誤を判断しかねる用語・用法には、その初出に「ママ」を付した。また、現在通行の用法では誤字・誤記に類する用法も、文意が通ずるかぎりは敢えて改めなかつた。

4 仮名遣い、平仮名・片仮名の別、および濁音表記は底本通りとし、変体仮名(例 と↓れ)、合字(例 元↓トモ)などは通行の文字に改めた。

- 5 底本が自筆原稿の場合、文意の通じにくい字句、固有名詞の誤記などは「」内に註記した。(例 渴ヲ医スル〔ニ〕足ル、姜委^{〔補〕})
- 6 句読点、改行、字下りなどの扱いは、通行の方式にしたがって整理したが、底本が自筆原稿、書簡などで句読点のない場合は、おおむね句点にあたる箇所および読み誤りやすい箇所を一字あけにした。
- 7 みせ消ちは原則として翻刻せず、内容理解に必要と思われる場合のみへゝ内に翻刻した。欄外の記入は「」で相当する箇所に入した。
- 8 破損、その他判読不能の箇所は、□□、□□、□□□□のように示した。
- 9 必要に応じてルビを付し、現代仮名遣いをもって表記した。底本が総ルビの場合は、特殊な読み方などを残し、他は省いた。
- 10 天心作の漢詩は第七巻で一括して訳註を付すため、本文中では白文のままとした。

本巻(第七巻)には、明治四十三(一九一〇)年から大正二(一九一三)年にいたる書簡二八二通(書簡II)、および漢詩・新体詩・歌謡・俳句・英詩を集大成して収録した。

書簡は年代順に配列して書簡番号を付し、和文書簡と英文(翻訳)書簡の区別は書簡番号の字体を変えて示した。英文書簡の訳者は大岡信氏、小野二郎氏、石橋智慧氏である。各氏担当の書簡番号は「書簡解題・註」の末尾に記し、各書簡については「書簡解題・註」およびその「凡例」に詳記した。また書簡I(第六巻)・書簡II(第七巻)にわたる全書簡の「書簡番号索引」を付した。なお、天心書簡に対応する主な天心宛書簡は、参考資料として本全集別巻に収録する。

漢詩・新体詩・歌謡・俳句・英詩は、天心の全著述（日誌、ノート、色紙等を含む）から集大成し、年代順に配列、正字を使用した。いずれも天心自筆（自筆がない場合は初出）の完成作品と思われるもの（十ポイント活字）に続けて、試作や変型の作を列記（九ポイント活字）した。天心自筆の記入が錯綜している場合には、整理・省略した箇所もある。漢詩は「三匝堂詩草」「瘦吟詩草」「詩文集」の順で収録し、本文では天心の自筆（あるいは初出）通り翻刻、書き誤りや誤植と思われるものは、訳註の読み下しで正した。漢詩の訳註者は竹内実氏である。

目
次

凡例

書簡Ⅱ

明治四十三(一九一〇)年 5

明治四十四(一九一一)年 46

明治四十五・大正一(一九一二)年 98

大正二(一九一三)年 196

漢詩

三匠堂詩草 301

瘦吟詩草 312

詩文集 317

新体詩	353
歌謡	357
俳句	377
英詩	379
解説	397
書簡Ⅱ解題	411
書簡番号索引	459
漢詩訳註	464
新体詩・歌謡・俳句解題	512
英詩解題	516
大岡 信	
竹内 実	

岡倉天心全集 第七卷

書
簡
Ⅱ

明治四十三年（一九一〇）年

416

一月一日 牧野伸顕あて 封書

【表】東京府下千駄ヶ谷 牧野男爵閣下

【裏】岡倉覚三 常陸大津町五浦 岡倉〔封印〕固

恭賀新年

明治庚戌元旦

岡倉覚三

牧野男爵閣下

417 一月一日 橋本秀邦あて はがき

【表】東京本郷龍岡町三十三 橋本秀邦殿 常陸天津町五浦 岡倉

恭賀新年

明治庚戌元旦

岡倉覚三

418 一月一日 ガードナー夫人あて 封書〔封筒ナシ〕

親愛なるガードナー夫人

新年の最初の祝詞を申しあげます。長らくご無沙汰いたしましたですが、あえて弁解はいたしません。というのも、当地のあなたの祭壇の香炉は今では冷えています。ここ何ヵ月もの間、ラングドン・ウォーナーがもってきてくれた数々の消息とメッセージの中で、一層生き生きした火を灯していたからです。ラングドンはかわいそうに、

養ってくれるものとしては故郷の追憶しかない状態の中で、夜を日に継いで私と共に激務に没頭しています。私にとっては、彼は日本宗教学美術に関する阿呆らしい本の英語版のために甚大な助力をしてくれているのみならず、彼自身が身にまとうてきたポストンの香りの切れっばしによっても、大切な宝でした。私はしばしば、わけもなくポストンに行きたいと渴望します——いえ、たぶん、わけは大いにある。只今私の弟が御地に在りますが、実際一家族に一人で充分なのでしょうね。私と弟子たちに示して下さったあれほどのご好意さであるのに、この上弟までもご厄介をおかけしてはと思ひ、あえて彼のことはお願いもしませんでした。

ラングドンは、あと数週で日本から帰国できるだろうと思ひます。その時はここでの私の釣りの成果についてご報告するでしょう。ラファージ氏にお会いになりますか。どうぞロス博士にくれぐれもよろしくお伝え下さい。そして、氏が目下悩んでいるにちがいない新美術館についての心労を慰めてあげて下さい。また、ポッター夫人、ポッター氏、カーター氏、ホームズ夫妻、そして、あなたのお宅で幸運にも知り合えた良き友たちに、どうぞよろしく。

バンザイ！

敬具

岡倉寛三

岡部は元氣です——六角も。ただし彼は自宅の柿の実をそっと盗ろうとして、柿の木から落っこち、また一度は、紙幣偽造犯とまちがえられて土地の警察に留置されました。あの男は人生のこの種の楽しみを必要としているのです。

元旦

常陸五浦

419 一月六日 下村観山あて 封書〔委託便〕

【表】下村観山殿

【裏】天心生〔封印〕ノ

昨日は失礼致候 御約束の検尿器為持申候 尿はUの字の処迄薬液はRの字の処迄注ぎ込二十四時間後ニ御覽
相成候事 勿論御異状なき事祈り上候

一月六日

天心生

観山兄

420 二月六日 中川忠順あて 封書

【表】東京小石川原町十 中川忠順殿 親展拝復

【裏】岡倉覚三 常陸天津町五浦〔封印〕固